

## 2 木材利用の意義

日本の人工林の多くは、戦後荒廃した森林の復旧のため、また、住宅の建築用材として通直で成長が比較的早いスギやヒノキが積極的に植えられました。しかし、利用可能な時期を迎えた現在、外材の利用や住宅等の非木造化が進み、国産材の利用が進まないという状況となっています。

これらの結果、新しい木が植えられなかったり、間伐が進まないことなどから土砂崩れの原因になったり、CO<sub>2</sub>の吸収能力が低下したり、病虫害が発生しやすい原因となっています。木材は、伐採して、再び植林して育てることで再生することができる資源です。「伐って、使って、植えて、育てる」。このサイクルを続ければ、枯渇することのない無限の資源といえます。

このサイクルを担う林業は、木材の生産等によって収入を得ながら、適切な生産活動を通じて森林整備や再造林を行うことにより、水源の涵養機能<sup>かんよう</sup>や土砂の流出防止機能等森林の有する多面的機能の発揮に貢献しています。森林の多面的機能が持続的に発揮されるようにするためには、林業の健全な発展が不可欠となっています。

人工林を中心に増加する森林資源を有効に活用しつつ、林業の健全な発展と県内の森林整備のための収益の還元を進めて行くためには、県産材の需要拡大が不可欠となっています。



地域を  
元気に!

山村における雇用創出と地域活性化のチカラに。

国産材の利用が進むことで、林業・木材産業が活性化し、雇用も創出されます。

